

アーカイブ Data Report

NO. 21

(2020年7月10日)

〒500-8813 岐阜県岐阜市明徳町10番地 杉山ビル5F
E-mail: shikaku@npo-nak.com URL: https://npo-nak.com

e-learning と学修支援資料、研究資料のデジタルアーカイブ

後藤 忠彦 林 知代 (岐阜女子大学)

2020年の新型コロナウイルス感染症の流行で、全ての学校の開講(授業)が困難になり、多くの学校で2020年4月から通信を用いた遠隔教育が実施された。

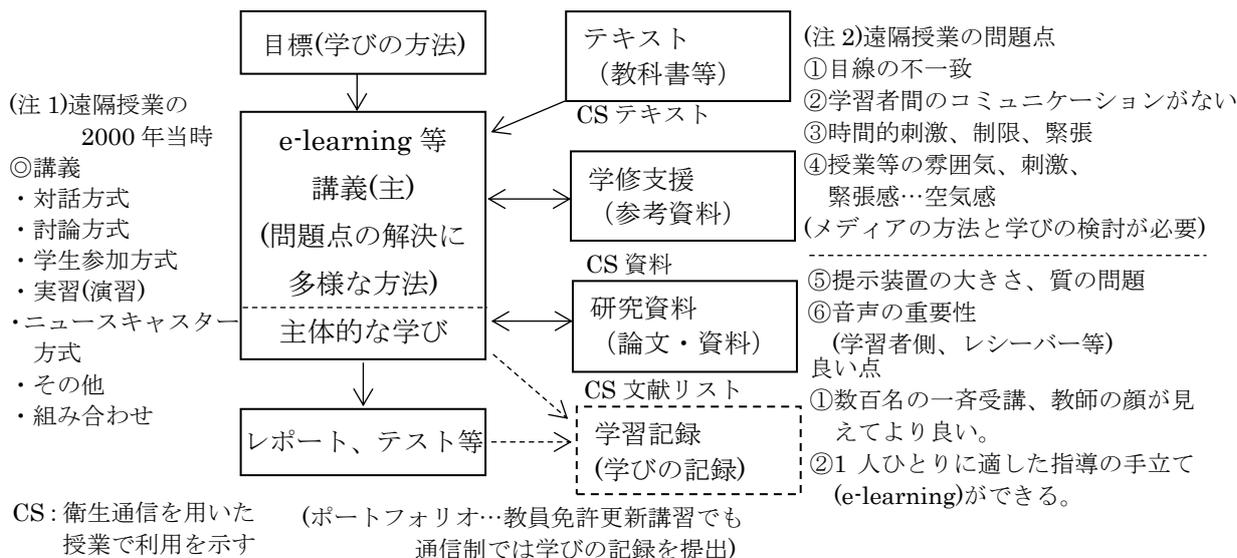
岐阜女子大学では、2000年には、全国の多くの国立大学関係者と共同し、衛星放送とテレビ会議システムを用いて、遠隔教育を実施した。

また、2011年からは、沖縄サテライト校を設置し、テレビ会議システムとe-learningを用いた授業を実施してきている。

これらの経験から、2020年4月から、次のような遠隔教育を新型コロナウイルス感染症予防対策として開講した。

- ① インターネットを使ったテキスト、学修資料、課題等の提供(サイボウズ利用)
- ② テレビ会議システムを用いた授業(一斉の学び: ZOOM等使用)
- ③ e-learningを用いた学び(いつでも学生の都合の良いときに学修)

この遠隔教育には、下図のような2000年の実践が基盤となっている。



[このような視点でe-learningのシステムおよび学修支援のデジタルアーカイブの検討をすべきである。]

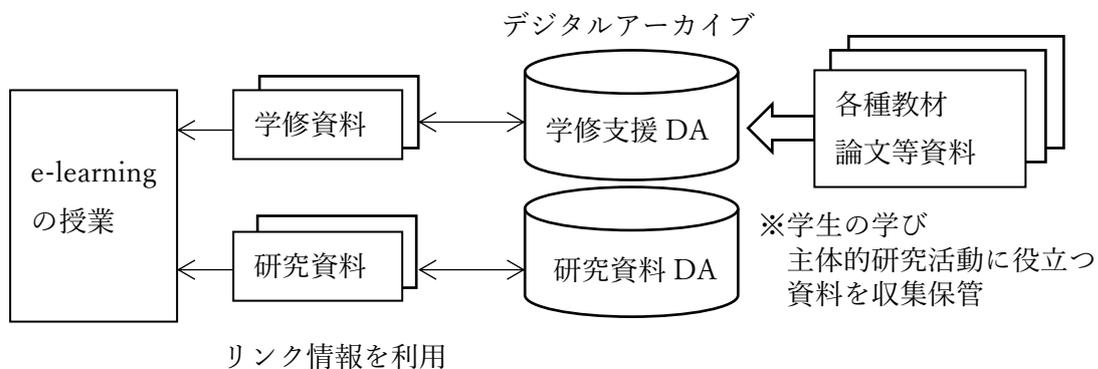
e-learning等の遠隔教育構成の課題 (2020年6月(G))

また、一連の遠隔教育の実践から、次の図のような教材（学修支援資料、研究資料）や学修指導方法についての各種課題がある遠隔教育の授業は、これまでの経験や研究から、次のような構成と注意が必要である。

遠隔教育を支援する学修支援資料（例えば参考資料）論文等の研究資料（学生用）の必要性、e-learning の学修は、一般的に家庭等の図書資料、研究資料などを保管する図書館資料室等が無い学修環境での学びである。

教室の授業やテレビ会議システムを用いた授業では、教師の判断で必要な教材を選び、その場で提示、提供が可能である。

このため、遠隔教育では、2000 年の実践から、学習資料（学修資料）、論文（研究資料）等の補助資料が使えるようにしてきた。



岐阜女子大学の e-learning では、各資料の学生の学び、研究に役立つ各種資料にメタデータを付け、デジタルアーカイブとし、その中から、学習する資料に適する資料（支援資料）やアクティブラーニング（主体的学習活動）等に役立つコンテンツを選択し、利用する。例えば、デジタルアーカイブの学修支援と研究資料のデジタルアーカイブは主たる資料を分類し保管する。

学修支援と研究資料

デジタルアーカイブの分類

- 文化（の理解）
- 記録保存（または保管）
- 計画・収集
- 管理・流通
- 利活用
- 選定評価
- （○地域資料：地域データを
中心に保管する）

| NO | 表題名 | 内容分類 | データ | 説明 |
|--------------|---|----------|-------------------------------------|---|
| DataReport10 | 画像で作成した初期の伝統的工芸品のデータベース（1999年）（アーカイブData Report No.1） | 利活用、記録保管 | 20181274rchiveDataReport_No.1.pdf | 画像データを用いた初期のデータベース（現在のデジタルアーカイブ）である。伝統的工芸品の地域、物産でリンク情報が構成されており、初期の構造化が用いられている。 |
| DataReport09 | デジタルアーカイブの活用成果のフィードバック（アーカイブData Report No.2） | 利活用 | 201812254rchiveDataReport_No.2.pdf | デジタルアーカイブを活用した結果をフィードバックし、データの整理方法を編み出されている。とくに、2018年からの授業での知の増進型サイクルを1つのフィードバック例として取り上げている。また、総論、つなぎ役（リンク）、統合ポータル等でのフィードバックを記録するメタデータの必要性を示している。 |
| DataReport08 | ドロウンのデジタルアーカイブの活用（1）（アーカイブData Report No.3） | 計画収集 | 202011274rchiveDataReport_No.3.pdf | デジタルアーカイブにおけるドロウン活用のための検索資格の必要性が説明されている。また、これまでの上記からの各種動向にわたるドロウンの活用可能性について示している。 |
| DataReport07 | デジタルアーカイブを編み出した「地域からい」の活用フィードバックによる改善（アーカイブData Report No.4） | 利活用 | 202012264rchiveDataReport_No.4.pdf | 観光デジタルアーカイブとして2011年から観光で使われてきた「地域からい」（注：おらいらい（注釈）は古語で数詞と同一のような意味で使われてる）の活用成果のフィードバック情報（還元情報）を用いて、どのように改善したかを示している。 |
| DataReport06 | 活用成果のフィードバックとメタデータ（アーカイブData Report No.5） | 利活用 | 202012144rchiveDataReport_No.5.pdf | 活用成果のフィードバックについて、どのようにメタデータの記録項目を設定し記録するか検討がされている。とくに、フィードバック情報を利用するための整理の観点から次のように示されている。①関連資料、②活用のプロセスの改善点、③特色、④活用分野 |
| DataReport05 | 調査資料「還元情報が記録できるメタデータ」（アーカイブData Report No.6） | 利活用、記録保管 | 202002274rchiveDataReport_No.6.pdf | メタデータの基本的な説明をメタデータの事例、およびデジタルアーカイブの開始者から見たメタデータ、活用者から見たメタデータを整理し、メタデータの役割の整理ができる。また、活用結果のフィードバック（還元情報）とメタデータの関係、信頼性と主観性の関係など全体を知るのに大変役立つ。 |
| DataReport04 | デジタルアーカイブの還元情報について「デジタルアーカイブの構築・共有・活用ガイドライン」（平成29年度）デジタルアーカイブの活用に関する事前研修報告書（関係者会議）の視点から授業での活動を見直ししている。とくに記録資料、付加価値情報、情報間の関連付け、知の増進型サイクルの構築、実践、評価、改善でのフィードバックの取組、コミュニケーション形成での課題を検討している。 | 利活用 | 202003044rchiveDataReport_No.7.pdf | |
| DataReport03 | フィードバックされた情報（還元情報）の整理のための「還元情報集約表」（アーカイブ | 計画収集 | 20200328_4rchiveDataReport_No.8.pdf | デジタルアーカイブを利用したフィードバックの結果をどのように集めるか、また使うかを示している。活用例としては、①コンテンツの改善、②付加価値情報、③コンテンツの活用、④関係者の活用方法などについて示している。また、地域資料をデータベースに追加するときのメタデータの調査（還元情報 |